

公表

事業所における自己評価総括表児童発達支援

○事業所名	kodon coco		
○保護者評価実施期間	2024 年11月1日 ~ 2024年12月8日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30 (回答者数)	25
○従業者評価実施期間	2024 年11月1日 ~ 2024年12月8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療専門職、福祉・保育の専門職が視点を生かして、課題の抽出や様々なアプローチから児童を支援できている。	支援の目的(5領域を意識した)を職員全体で意識して活動を行っている。	研修会への参加がしやすくなる制度の拡充。
2	個別で児童1人1人に対して向き合える・関われる時間を多くもてている。	保護者・本児のニーズ、必要な課題に応じた支援内容を検討している。	関係事業所とのより連携の強化。
3	保護者、職員間の連携含め、関係事業所、園との連携を細目に行えている。	職員の業務の効率化、働き方改革を考えて運営を行っており、職員が心にゆとりをもってサービス提供ができる場所を提供しようとしている。	自社で学べる研修制度を検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団での困り感に対してアプローチは、小集団の療育と比較すると弱い為、関りをもたすことはできている。	個別療育の為、小集団でしている療育と比べ集団に対してのアプローチが難しい事が要因	社会性や集団性を高める経験が必要の方は、積極的に小集団の療育を促す事や、園での関わり方や声掛け等をしていく。
2	行事等の活動は少ない。	1人1人の課題に対して支援をしていく為、行事事に取り組む時間はどうしても少なくなってしまう。	工夫：課題に関係できる時は、促していく。支援に必要性が無い場合は、積極的には行わない。(園等で行っている為)
3			